

在宅医療連携拠点事業成果報告

拠点事業者名：在宅医療連携拠点チームかまいし(釜石市)

1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の取り組み方針について

釜石保健医療圏(釜石市、大槌町)では、地域医療崩壊を圏域の基幹病院の機能不全と捉え、それを防ぐために市や町では、「かかりつけ医」を持つことなどを住民に奨励・啓発してきた。また、そのかかりつけ医が担う在宅医療の普及についても、地域医療崩壊を防ぐための手段の一つとして力を入れてきた経緯がある。

釜石医師会では、平成19年から多職種参加型の「釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会(以下、「検討会」という。)」を開催し、課題の抽出と解決への方向性を話し合ってきた。検討会は、医師会、薬剤師会、歯科医師会、病院関係者、介護保険福祉施設関係者、地域包括支援センター、保健所及び市町職員の約70名前後が参加する大会議である。ここで検討された課題や方向性が地域全体のコンセンサスの基礎となると同時に、この検討会自体が多職種連携の基軸としての一定の役割を果たしてきたという実績がある。

しかし、地域医療のICT化、地域包括ケア、東日本大震災の経験を踏まえた連携構造の検証や新たな課題についてなど、話し合われるべき課題が山積しているにも関わらず、震災後の混乱により話し合いの場となっていた検討会は開催することが出来ない状態が1年以上続いていた。

そこで、この度、地域医療連携の再確認を行い、超高齢社会に順応するための然るべき対策を検討し、然るべく機関に働きかけを行い、自ら実行するための契機として拠点事業の立ち上げを検討するに至った。

拠点の取り組み方針としては、①連携基盤形成拠点 ②診療支援拠点 ③調整拠点 と、必要とされる事務を3つの大項目に分類し、プロジェクトリス

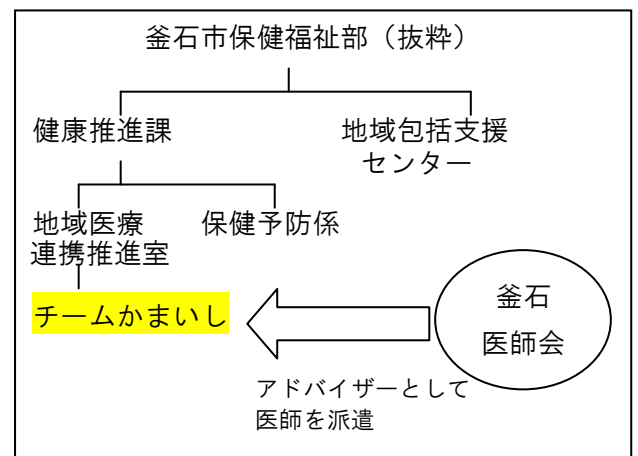
トを作成して課題に対応することとした。別紙チームかまいしスケジュールの項目がプロジェクトリストの項目となっている。

2 拠点事業の立ち上げについて

当初は、釜石医師会が実施主体となり事業申請することも検討されたが、事業内容を検討した結果、釜石医師会との連携のもと、釜石市が実施主体となり申請することとなった。

平成24年6月4日(月)、在宅医療連携拠点事業に係る世話人会(以下、「世話人会」という。)での協議を経て、平成24年7月1日付で釜石市保健福祉部健康推進課地域医療連携推進室に在宅医療連携拠点チームかまいし(以下、「チームかまいし」という。)が設置された。世話人会は、後述3-(2)に記載の在宅医療連携拠点事業推進協議会メンバーとほぼ同じメンバーで構成されている。

チームかまいしの立ち上げにあたっては、市の地域医療連携推進室職員(一般事務)を専任担当として配置したほか、看護師と臨時職員(一般事務)を新たに雇用した。また、釜石医師会からは、介護在宅診療部会長の寺田尚弘医師がチームアドバイザーとして派遣された。



3 拠点事業での取り組みについて

(1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

医療・介護資源マップを作成し、ホームページに掲載した。

(2) 会議の開催(地域ケア会議等への医療関係者の参加の仲介を含む。)

○第1回釜石市在宅医療連携拠点事業推進協議会開催

日時:平成24年7月24日(火)18:30

会場:釜石市保健福祉センター9階

出席者:釜石医師会、釜石歯科医師会、釜石薬剤師会、釜石市に所在する病院、釜石広域介護支援専門員協議会、釜石保健所、釜石市、東京大学高齢社会総合研究機構 計31名

アドバイザー:辻哲夫氏

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授
アドバイザー:高橋昌克氏

金沢医科大学肺機能治療学講師

協議内容:会長及び副会長の互選、在宅医療連携拠点事業の概要説明、今後の進め方

○平成24年度第1回釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会

日時:平成24年9月5日(水)18:30

会場:沿岸広域振興局4階大会議室

出席者:釜石医師会(診療所医師・医師会事務局)、病院(医師・看護師・MSW)、歯科医師会、薬剤師会、釜石広域介護支援専門員協議会、居宅介護支援事業所、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、訪問リハ、訪問看護、訪問介護、通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症高齢者グループホーム、相談支援事業所、釜石市地域包括支援センター、釜石保健所、釜石市 計59名

座長:寺田尚弘氏

釜石医師会介護在宅診療部会長

内容:地域医療再生計画における医療・介護・福祉連携に関する意見収集(地域医療ICT化に向けた意見収集)

○平成24年度第2回釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会(地域包括ケアを考える懇話会同時開催)

日時:平成25年1月28日(月)18:30

会場:沿岸広域振興局4階大会議室

出席者:東京大学高齢社会総合研究機構、東京大学大学院、釜石市老人クラブ連合会、釜石市シルバー人材センター、有償ボランティア団体、釜石市社会福祉協議会事務局、釜石医師会(診療所医師・医師会事務局)、病院(医師・看護師・MSW)、歯科医師会、薬剤師会、釜石広域介護支援専門員協議会、居宅介護支援事業所、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、訪問リハ、訪問看護、訪問介護、通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症高齢者グループホーム、障がい者福祉施設、大槌町地域包括支援センター、釜石市地域包括支援センター、釜石保健所、大槌町、釜石市 78名

座長:寺田尚弘氏

釜石医師会介護在宅診療部会長

テーマ:復興を内包した地域包括ケアのまちづくりについて

内容:検討会としては今後の地域包括ケアの方向性の把握を目的として開催し、懇話会としては提言書作成に向けた意見収集を目的とする。

(3) 研修の実施

○地域包括支援センター職員等研修

※概要は、3-(5)に記載

○柏市-釜石多職種合同研修会

【第1部】

日時:平成24年10月9日(火)15:30

会場:青葉ビル研修室

出席者:医師、歯科医師、薬剤師、保健師、介護保険施設管理者、看護師、ケアマネ、作業療法士、釜石保健所、柏市、釜石市等 60名

内容:事例紹介と意見交換

「東大柏モデルについて」

東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員

井堀幹夫氏

「千葉県柏市の取り組みについて」

柏市保健福祉部福祉政策室長

松本直樹氏

「東大柏 PJ 試行 WG について」

東京大学高齢社会総合研究機構特任研究員

木全真理氏

「柏市の多職種連携のコツ」

柏市保健福祉部福祉政策室長

松本直樹氏

「釜石市の多職種連携のコツ」

チームかまいしチームアドバイザー

寺田尚弘氏

【第 2 部】

日 時:平成 24 年 10 月 9 日(火)18:00

会 場:青葉ビル研修室

出席者:医師、歯科医師、薬剤師、保健師、介護
保険施設管理者、看護師、ケアマネ、作業療法士、
釜石保健所、柏市、釜石市等 68 名

内 容:クイズ、事例紹介、グループワーク

《クイズ》「高齢社会のまちづくり」

東大高齢社会総合研究機構特任研究員
後藤純氏

《事例紹介》「柏プロジェクトについて」

柏市保健福祉部福祉政策室長

松本直樹氏

《情報提供》

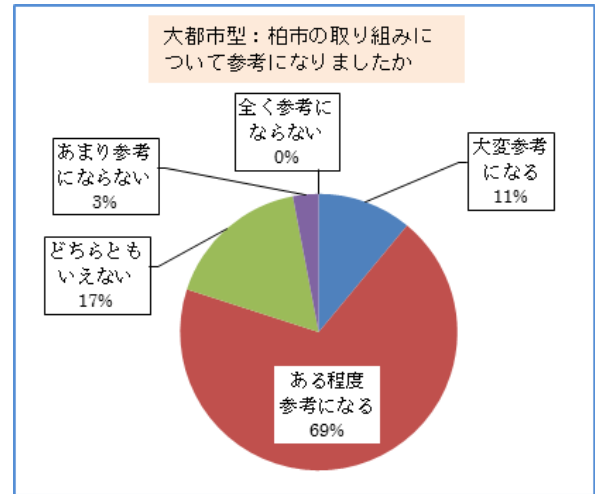
「釜石市における在宅医療と多職種連携」

- ・介護支援専門員からの情報提供
- ・医師からの情報提供
- ・仮設住宅運営センター所長からの情報提供

《グループワーク》

「多職種連携で支える仮設住宅の生活」

前段で提供された情報をもとに 8 つのグループ
にわかれて KJ 法によるグループワークを行った。



○介護版死亡症例検討会

※概要は、3-(5)に記載

○多職種合同研修会

【第 1 部】

ささえる医療から学ぶ高齢社会とまちづくり

日 時:平成 24 年 11 月 5 日(月)15:30

会 場:青葉ビル研修室

出席者:医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケア
マネ、ヘルパー、作業療法士、保健師、保健所、
釜石市等 計 66 名

内 容:講演と座談会

講演「ささえる医療とまちづくり」

NPO 法人ささえる医療研究所理事長

村上智彦氏

講演「超高齢社会の医療政策とまちづくり」

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授

辻哲夫氏

座談会「生きがいを支えるまちづくり」

出演 辻哲夫氏、村上智彦氏

座長 寺田尚弘氏

【第 2 部】

高齢社会と多職種連携における歯科の役割

日 時:平成 24 年 11 月 5 日(月)17:45

会 場:青葉ビル研修室

出席者:医師、歯科医師、薬剤師、看護師、ケア
マネ、ヘルパー、作業療法士、保健師、保健所、
釜石市等 計 68 名

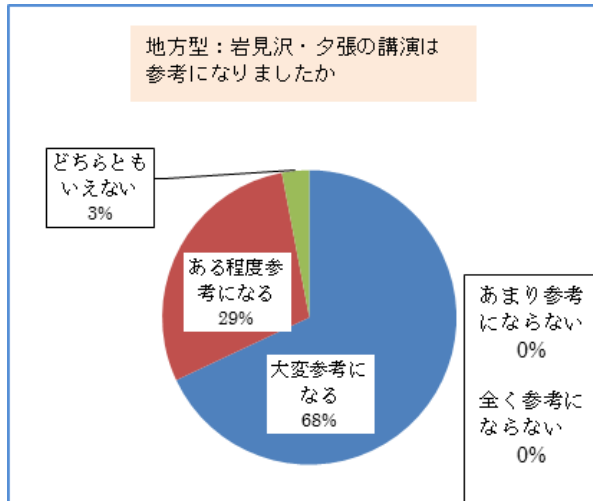
内 容:講演

「歯科医から見た多職種連携における展望と課題」

医療法人財団夕張希望の杜理事長
八田政浩氏

《総括》

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授
辻哲夫氏



○連携コーディネーター育成研修

チームかまいしスタッフを地域包括ケアにおける医療連携窓口担当として育成するために下記の研修を連携コーディネーター育成研修と位置づけ受講を義務付けた。

- ・7/5 東大柏モデル視察研修
主催：東京大学高齢社会総合研究機構、
釜石市健康推進課
- ・7/9 連携コーディネーター育成研修
主催：チームかまいし
- ・7/26 薬剤師居宅療養管理指導見学研修
主催：チームかまいし
- ・7/30 訪問診療に関する研修
主催：チームかまいし
- ・8/1 薬剤師居宅療養管理指導見学研修
主催：釜石薬剤師会、チームかまいし
- ・8/2【午前の部】【午後の部】訪問診療見学研修
主催：釜石ファミリークリニック、
チームかまいし
- ・8/10 電話問い合わせ対応マニュアル研修
主催：チームかまいし
- ・8/17 チームもりおか連携情報交換会
主催：チームもりおか、チームかまいし
- ・8/20 地域包括支援センター職員等研修
主催：釜石市地域包括支援センター、
チームかまいし
- ・8/24 在宅医療連携拠点事業者意見交換会
主催：あおぞら診療所
- ・8/28 県立釜石病院在宅医療推進センター等
見学研修
主催：チームかまいし
- ・9/5 介護保険制度に関する研修
主催：チームかまいし
- ・9/12 チームもりおか多職種合同研修会
「地域を守る、ささえる医療の実践」
主催：チームもりおか
- ・10/9 柏市-釜石市多職種合同研修会
主催：柏市、チームかまいし
- ・10/17 摂食・嚥下セミナー
主催：岩手医科大学歯学部
- ・10/29 死亡症例検討会
主催：釜石市地域包括支援センター、
チームかまいし
- ・10/30 県立釜石病院サポーターズ勉強会
主催：釜石市健康推進課
- ・10/31 難病医療従事者研修
主催：岩手県重症難病患者入院施設
連絡協議会
- ・11/5 多職種合同研修会
主催：チームかまいし
- ・11/27 介護支援専門員等研修会
主催：釜石市地域包括支援センター
- ・11/29 がん緩和ケア医療講習会
主催：釜石医師会
- ・11/29 認知症について学び支え合う
地域づくり講座
主催：沿岸広域振興局保健福祉環境部
- ・12/7 チームもりおか多職種合同研修会
「施設での看取りを考える」
主催：チームもりおか
- ・1/11 岩手県被災地地域包括ケア(医療連携)研
修会
主催：岩手県高齢者総合支援センター
- ・1/27 在宅チーム医療人材育成

地域リーダー研修

主催:岩手県保健福祉部医療推進課

- ・2/2 北海道・北東北ブロック拠点事業所
活動発表会

主催:北海道・北東北ブロック活動
発表会実行委員会

- ・2/20 チームもりおか多職種合同研修会
「他地域の在宅医療を覗いてみよう」
主催:チームもりおか

- ・3/7 地域 ICT 利活用普及促進セミナー
主催:総務省東北総合通信局

- ・3/30-31 第 15 回日本在宅医学会大会
主催:日本在宅医学会

・地域包括ケアについて

○介護版死亡症例検討会の実施

日 時:平成 24 年 10 月 29 日(月)14:00

会 場:沿岸広域振興局 4 階大会議室

出席者:医師、歯科医師、薬剤師、看護師、MSW、
ケアマネ、ヘルパー、作業療法士、大槌町職員、
釜石市職員等、計 79 名

内 容:講義、事例発表、グループワーク

講義「症例をとおして学ぶ多職種連携について」

釜石ファミリークリニック院長

寺田尚弘氏

事例発表「家族を支えるチームワーク」

指定居宅介護支援事業所さくら所長

平野泉氏

(4) 24 時間 365 日の在宅医療・介護提供体制の構築

釜石保健医療圏では、在宅医療支援診療所が 3 箇所あり、その内、釜石ファミリークリニックが機能強化型在宅療養支援診療所として中心的な役割を担っている。

チームかまいしでは、他診療所等から相談があった都度、ケースに応じた対応策を検討して支援につなげるという方針で相談窓口を開設した。

その結果、在宅医療への参入を希望する病院から開業ノウハウや在宅医療の現状についての情報提供を求める相談があり、釜石ファミリークリニックから相談元に対して必要な情報を直接提供していただけるよう連絡調整を行った。

(5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを対象にした支援の実施

○地域包括支援センター職員等研修

日 時:平成 24 年 8 月 20 日(月)16:00

会 場:保健福祉センター8 階

出席者:地域包括支援センター職員等 17 名

講 師:寺田尚弘氏

チームかまいしチームアドバイザー

内 容:講義と意見交換

- ・在宅医療連携拠点事業について
- ・釜石保健医療圏の地域医療について

その他:地域包括支援センターとの共催事業として実施した。地域包括支援センターでは、「死亡」という単語の使用を避けて「地域包括ケア症例検討会」という名称で事業を実施した。

チームかまいしは、医療担当窓口として地域包括支援センター担当者と医療関係者をつなぐ役割を担った。また、関係者との事前打ち合わせ会を 3 回実施した。

効 果:地域包括支援センター主催事業にチームかまいしが関与したことにより、歯科医師会と薬剤師会内での周知が図られ、これまでに参加していなかった歯科医師が参加した。また、薬剤師の参加も増えた。

(6) 効率的な情報共有のための取組(地域連携パスの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係者の連絡様式・方法の統一など)

釜石保健医療圏では、平成 24 年 6 月 11 日付で釜石・大槌地域医療連携推進協議会を設置し、平成 25 年 3 月 21 日から、かまいし・おおつち医療情報ネットワーク(以下、「医療情報ネットワーク」という。)を運用することとなった。

この医療情報ネットワークは、平成 24 年度には病院と診療所、平成 25 年度には薬局や介護施設等をつなぐことが決まっており、チームかまいしとしては、この医療情報ネットワークが在宅医療連携

にも使用可能なのか、また、別途在宅医療連携に特化したシステムを構築すべきなのかを検討するために情報収集に努めた。

また、それとは並行する形で、プロジェクトスタッフ間での情報共有を目的としてサイボウズ Live を試験的に導入した。

具体的には、①チームかまいしコアスタッフ ②被災者支援 ③医科歯科連携 ④医科薬科連携の4つのグループを作成し、掲示板機能を使用した研修情報の周知や会議の日程調整等を行った。

(7) 地域住民への普及・啓発

○関係者向けチラシ作成と配布

別添資料のとおりチラシを作成し、釜石保健医療圏内の関係機関に発送した。職員の一人ひとりの目に触れるよう、事業所の規模に応じて複数部発送した。

○ホームページの開設と運用

平成24年10月2日より運用。随時更新中。

<http://www11.ocn.ne.jp/~zaitaku/>

○地域連携だより「Face to Face」発行

地域連携だよりは、平成22年に釜石医師会が第1号を発行してからは事実上休刊となっていた。それをチームかまいしが引き継いで第2号から発刊した。チーム釜石では、この地域連携だよりを情報誌版の「顔の見える会議」と位置づけ、拠点事業の取り組み状況のほか、圏域の多職種の方々を順次掲載することとしている。

・第2号 2012/12/12 発行

・第3号 2013/2/26 発行

地域連携だよりは、圏域の関係機関に複数部発送したほか、チームかまいしのホームページでも閲覧することができる。内容は別添資料のとおり。

○広報かまいし「チームかまいし通信」連載中

市の広報誌に不定期で「チームかまいし通信」を連載中。掲載内容は、チームかまいしホームページ及び釜石市ホームページで閲覧することができる。

・広報かまいし 8/15号

「在宅医療に関する窓口が開設されました。」

・広報かまいし 10/1号

「超高齢社会を地域で暮らす」

・広報かまいし 11/21号

「どうすれば在宅医療が受けられますか」

・広報かまいし 2/20号

「在宅医療とチームケア」

○研修会の実施

※詳細は、3-(3)に記載

○出前講座の実施

日時：平成24年11月9日(金)14:25

※民生委員の定例会の機会を活用

会場：唐丹地区生活応援センター

テーマ：「釜石の在宅医療」

講師：寺田尚弘氏

チームかまいしチームアドバイザー

内容：スライドを活用した講義と意見交換

参加者：唐丹地区の民生委員、生活応援センター所長、保健師、仮設住宅支援連絡員等14名

4 特に独創的だと思う取り組み

○復興を内包した地域包括ケアのまちづくり

当拠点は、復興枠ではなく一般枠であるが、被災地の拠点として事業を実施していく中で、被災地特有の健康課題と向き合うことが必要不可欠であることに改めて気づかされた。

釜石市が地域包括ケアの実現を推進するためには、復興という視点を抜きにして語ることは出来ない。そこで「復興を内包した地域包括ケアのまちづくり」という項目をチームかまいしの課題の一つとした。

「復興を内包した地域包括ケアのまちづくり」とは、地域包括ケアに対する従来の取組みを継続しつつ、震災により失われた社会的健康を再生していくプロセスである。コミュニティを再生し、生活環境を整え、生きがいの仕組みをつくり、地域に開かれた孤立することのない環境を実現することである。

チームかまいしが拠点事業を推進する中で抽出された課題に対応するため、事業推進のために構築されたネットワークを基盤として釜石市地域包括ケアを考える懇話会(以下、「懇話会」という。)が設置され

た。

○釜石市地域包括ケアを考える懇話会

目的:東日本大震災の復興事業が本格化する中、高齢者が住み慣れた地域で自立して暮らし続けることが出来るよう、地域包括ケアのあり方を検討する。

構成メンバー:小泉嘉明(釜石医師会長)、辻哲夫(東京大学高齢社会総合研究機構、釜石市復興まちづくりアドバイザー)、寺田尚弘(釜石医師会介護在宅診療部会長)、高橋昌克(釜石のぞみ病院医師)、小泉秀樹(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授)、松田宇善(釜石広域介護支援専門員連絡協議会副会長)、斎藤裕基(釜石広域介護支援専門員連絡協議会元会長)、前川公二(釜石市社会福祉協議会事務局長)、竹内敦子(すずらんふれあいの会会長)、栗澤稔(釜石市老人クラブ連合会会長)、石川順子(釜石市シルバー人材センター事務局長)

概要:チームかまいし主催事業で抽出された課題のほか、釜石市長が招集した11/8の意見交換会や11/29、12/27、1/28の3回の懇話会の開催により意見を収集し、内容を協議検討した上で、提言書「生きる希望にあふれたまちづくり」を作成した。

平成25年2月27日(水)、小泉嘉明懇話会会長が会を代表して釜石市長に提言した。この提言内容については、チームかまいしホームページで閲覧することができる。

提言を受けた釜石市では、復興推進本部を中心とした関係各課が横断的に内容を検討し、今後の復興のまちづくりに活かすこととしている。

5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があった取り組み

チームかまいしでは、拠点事業が実施されている間だけの一過性のものではなく、将来にわたって継続される、しっかりとした連携が育つように、連携の種をまくイメージで機能団体への働きかけを行い、定期的に打ち合わせ会を実施するなど連携の基盤づくりに力を入れてきた。

連携推進のために開催した歯科医師会または薬剤師会との打ち合わせ会は、何かを決めるための会

議ではなく、「他」職種がお互いの事情を言い出せる土壌づくりを目的の一つとしている。

複数回の打ち合わせ会開催により、顔の見える関係を構築することの必要性や在宅医療での歯科や薬科の必要性に対する認識が深まり、職能団体主催の連携推進セミナーの開催や地域ケア会議への医療関係者の参加に結びついた。

【主な効果】

・平成25年4月8日(月)に実施された地域ケア会議への医師と薬剤師の参加

※釜石市では、今回初めて医師等が参加する地域ケア会議が実施された。チームかまいしは医師と薬剤師の参加に係る連絡調整を行った。

・釜石歯科医師会主催による「チームかまいし医科歯科連携推進セミナー」開催準備※平成25年4月24日(水)実施予定

・釜石薬剤師会との連携による薬介連携の機会創出の検討※平成25年度実施予定で検討中

【医科歯科連携】

◆8/21 第1回医科歯科連携打ち合わせ会

出席者:釜石歯科医師会2名、釜石医師会1名、チームかまいし2名、計5名

内容:医科歯科連携の基盤形成をどうするか

◆9/20 第2回医科歯科連携打ち合わせ会

出席者:釜石歯科医師会3名、釜石医師会2名、チームかまいし2名、計7名

内容:医療介護連携における歯科連携の現状(医科歯科連携から多職種連携へ)、かかりつけ医としての在宅歯科診療、歯科医の現状と課題、今後の可能性について、

◆11/22 第3回医科歯科連携打ち合わせ会

出席者:釜石歯科医師会3名、チームかまいし2名、計5名

内容:患者情報の流通・紹介の流れをどうつくるか

◆3/27 第4回医科歯科連携打ち合わせ会

出席者:釜石歯科医師会4名、チームかまいし2名、計6名

内容:4/24 チームかまいし医科歯科連携推進セミナー実施概要について、患者の流通・紹

介の流れについて、

【医科薬科連携】

◆9/3 第1回医科薬科連携打ち合わせ会

出席者：釜石薬剤師会2名、チームかまいし3名、計5名

内容：在宅医療における薬科連携の必要性について、連携の基盤形成について

◆12/4 第2回医科薬科連携打ち合わせ会

出席者：釜石薬剤師会3名、チームかまいし3名、計6名

内容：薬剤師会での第1回医科薬科連携打ち合わせ会結果報告について、薬剤師会役員を対象とした研修会の実施について、薬薬連携について

◆1/16 第3回医科薬科連携打ち合わせ会

(薬剤師会役員を対象とした研修会)

出席者：釜石薬剤師会11名、チームかまいし2名、計13名

内容：拠点事業等の概要説明と意見交換
《抽出された課題》

- ・医師は万能ではないので歯科や薬科に関することは各専門に任せたい。(医師の負担軽減)
- ・薬剤師がケアマネ等介護関係者に接する機会はほとんどない。
- ・三師会(医師、歯科医師、薬剤師)の役員レベルでは顔の見える関係が構築されていると考えられていたが、現場では顔が見える関係が構築されているとは言い難い。

6 苦勞した点、うまくいかなかった点

釜石保健医療圏は、釜石市と大槌町で構成されている。釜石医師会や歯科医師会、薬剤師会の対象エリアも釜石保健医療圏と同一である。

拠点事業の実施主体である釜石市は、釜石医師会の協力を得て拠点事業を実施しているため、チームかまいし主催の会議や研修会においては、大槌町に所在する医療介護関係者にも周知を行ってきた。しかし、チームかまいしからの行政としての大槌町への働きかけについては、復興に係る業務多忙という状況への配慮や、町の「医療」に関する事務の

窓口の不明確化等により、全く不十分であったと言わざるを得ない。これは、次年度の課題である。

7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点に対するアドバイス

在宅医療の普及や介護との連携を推進するためには、「顔の見える関係」の構築が連携の入り口だとすると、病院医療を巻き込んだ地域医療全体における在宅医療の位置づけについてのコンセンサスを地域で形成することが最大のカギとなる。

また、当圏域においての最大のコンセンサス形成の場は、冒頭でも述べた釜石医師会主催の釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会であるが、ここで重要なのは、検討会参加に係るコンセンサスの一つが、地域に対する「貢献の拠出(負担の分かち合い)」となっている点である。これは、行政からは中々発信できる言葉ではない。そして、このようなコンセンサスの元に地域医療を担っている釜石医師会だからこそ、釜石市は市を挙げての協力体制をチームかまいしという形で構築することができたと言える。

「負担のなすり付け」でなく「貢献の拠出(負担の分かち合い)」。行政との連携に悩む機関には、ぜひ、参考としてほしいと思う。

8 最後に

チームかまいしにとっては、同じ岩手県内の1年先輩の拠点である“チームもりおか”の活動は、立場は異なるものの参考とさせていただくことも多く、実に有難く頼もしい存在であった。

県内では、地域リーダー研修の実施を経たタイミングで新たな拠点が立ち上がっている。県を中心としたチームもりおか等との連携により、岩手の在宅医療連携の推進の一翼を担うことで、平成24年度の拠点事業実施主体としての責任を果たしたいと思う。

また、国立長寿医療研究センターをはじめ、全国105箇所の拠点との横の連携は、地域においては気づかないことを気づかせてくれる貴重な機会であった。この県内外の横の連携を今後の事業推進にも活かしたいと思う。